

我ら 50 期 ここにあり

1つの山を越えました。 ～私立受験おつかれさま～



受験の数日前ぐらいは、学年全体がモソモソ・ソワソワしていましたね。勉強しているときの教室はピンと張りつめた空気でした。机の上には赤本がちらほら見えかくれしていました。職員室前の1年生の連絡ホワイトボードには、「頑張れ三年生！」という応援メッセージが書かれてありました。先生や後輩たちの気持ちの後押しは本当に励みになりますね。ありがとうございました。受験の二日間は学校に待機していましたが、忘れ物を取りに来ることもありませんでしたし、学校に1件も問い合わせの電話がかかってきませんでした。「こんなことはここ数年ないことですよ」と、進路主事の宮下先生から褒めて頂きました。本当に素晴らしかったです。

鬼を考える⑥



日頃私たちは、立ち止まるということをしているのでしょうか。毎日何かの目標に向かって歩き続けています。歩みを止めないことを良しとしています。そしてその目標の多くは経済活動、つまりいかに効率よく財産を手に入れ、モノを消費していくかです。立ち止まることなく、ただ消費を求めるだけの姿。その姿が鬼滅の刃に出てくる鬼と重なります。作中の鬼は人を喰うためにだけに生き、立ち止まりません。立ち止まるということは、自分の行いについて考えることです。これでよかったのか、このまま進んでいいのか。しかし鬼は自分を振り返るなんてことはしません。人間には立ち止まるという機能があります。人生において環境が大きく変化するとき、儀式を行い自らを振り返ってきました。今、多くの儀礼が簡略化されています。時代によっては価値観が変わることは必然かもしれません。無駄な儀礼も多すぎます。しかし生身の人間として立ち止まることは忘れて欲しくないのです。時には足を止めてみてはいかがでしょうか。そこが人間と鬼との大きな違いです。

「勇気」が必要な場面



私たちの日常生活の中では、よいことだとわかっていても、行動に移すのをためらってしまうことがあるものです。例えば、座席の埋まった電車に、お年寄りが乗車してきたとき、「席をゆずるなんて、余計なお世話だと思われるだろう」という不安や、「知らない人に声をかけるのは恥ずかしい」という思い、または「自分が動かなくても、他の誰かが席をゆずるだろう」と人任せにする気持ちなどが先に立ってしまし、なかなか一步を踏み出せなかったという経験はないでしょうか。こうした思いに流されることなく、よいこと、正しいことを行動に移すには、一言でいえば勇気が必要です。身近な生活の場で、小さな勇気が必要になる場面は、考えてみるともっとたくさんあるでしょう。「苦手なことに挑戦してみる」「いつもたくさん話していない友達に、自分から話しかけてみる」「迷惑なことをしている人に呼び掛けてやめさせる」・・・そうした場面で小さな勇気を奮い起こし、実際の行動への第一歩を踏み出してこそ、私たちの「人間としての力」は大きく育っていくのではないのでしょうか。



中学最後の懇談です。

暦の上では春を迎えようとしています、まだまだ寒い日が続いています。風は冷たいですが、春に近付いているのを感じます。卒業式まであと1カ月となりました。あっという間ですね。これからは1日1日が、今まで以上に大切な日々となっていきます。中学3年生にとって、今まさに準備の季節。自分のつぼみに力を蓄えるときです。やがて来る春(卒業・進学)のために、「今、すべきこと」を一生懸命行い、自分を高めて欲しいと思います。進路懇談も大詰めになってきました。公立一般選抜の内容を主に行いますが、3年間の成長の集大成を喜び合うようにお迎えしようと考えています。保護者、本人、学校の思いが一致して4月からの新しい生活に結びつくような実りのある時間にしたいと思います。よろしく願います。進路が決まっている人は懇談は行いませんが、50期生全員にとって「自分のつぼみに力を蓄えるとき」「4月からの新しい生活に結びつくような実りある時間」ということには変わりはありませんので、懇談期間の時間を大切にしてください。